

## 児童生徒絵画展示「第 116 回」?

広報「きみの」には、年 3 回掲載されるお知らせがあります。町内のこども園、小学校、中学校から出品していただいた絵が役場本庁や美里支所、中央公民館、文化センターで飾られていますという内容です。その都度出品者の名前を紹介させていただいています。今年の 8 月から 10 月末の期間は 61 人、11 月から令和 5 年 2 月 10 日までは 49 人です。（令和 5 年 1 月号掲載）



今回私が驚いたのは、公民館の主事さんが展示の準備に持っていた 1 枚の紙でした。

タイトルは、児童生徒絵画展示作品出品者及び展示場所となっていて、そのあとに（第 116 回 令和 4 年 11 月～2 月 10 日まで）と書いてありました。

広報「きみの」には載っていない「第 116 回」の数字が気になりました。さかのぼって調べてみると、平成 23 年 3 月の資料が見つかりました。その時は第 81 回でした。それ以前の資料は見当たりませんが、1 年に 3 回実施で単純に計算すると約 27 年ということになり、昭和 59 年には始まっていたという計算になります。もう一つの手がかりは、『社会科副読本 わたしたちののかみ』（昭和 58 年 3 月発行）です。「昭和 57（1982）年に中央公民館がかんせいし、町の文化をたかめるためにたいへん役立っています。この中には、大ホールや会議室、てんじ室などがあり、音楽会や作品のてんじ、いろいろな会議に使われています。また、ろう下には、わたしたちの図画がいつも展示されています。」との記述があり、開館当初から展示されていたことがうかがわれます。

元公民館長の田尻章さんは、「公民館に有名な画家の絵を飾ることは難しいが、子どもたちの絵を飾ることにこそ価値がある」と考え、始めたものであると教えてくれました。また、ある大学の先生からは非常に優れた取り組みだと賞賛されたことも懐かしそうに話して



くれました。作品を展示することで、庁舎や公民館に潤いが生まれるとともに子どもたちの制作意欲を高められるという効果が期待でき、改めて先見の明を感じます。推定ですが、毎回 60 人ほどの作品が 116 回となると 6,960 人に上ります。令和の子どもたちは、何を考え、どんな風景をみているのか、公民館廊下ギャラリーで、自分の目で確かめるのもいい

いものです。ギャラリーは火曜・祝日閉館です。

（令和 4 年 12 月 11 日）